

てびねり

二月号

平成21年2月1日発行
株式会社ゆしま陶助

東京国立博物館

東京国立博物館は上野公園の中心的な建物で、本館・表慶館・東洋館・平成館・法隆寺宝物館ほか付帯施設を含めて「東京国立博物館」になっており、独立行政法人国立文化財機構が運営する日本最古の博物館です。

最初は湯島聖堂や千代田区内幸町で「博覧会」を開いていましたが、明治8年に上野寛永寺本坊跡地に本館が完成しました。その後、関東大震災で使用不能になり、昭和13年に建て直したのが、現在の本館で重要文化財に指定されています。

表慶館は大正天皇のご成婚記念として明治42年に作り、やはり重要文化財に指定されています。今、表慶館では、慶應義塾150年記念「未来をひらく福沢諭吉展」を3月8日まで開催しています。



(上)福沢諭吉展ポスター

(下)妙心寺展ポスター

平成館は皇太子(浩宮)のご成婚を記念して平成11年に開館しています。

この平成館では現在、京都の「妙心寺特別展」が3月1日まで開かれています。

法隆寺宝物館は明治初期に廃仏毀釈の運動を怖れた法隆寺が皇室に献納した宝物三百余点を展示しています。この法隆寺宝物館は平成11年に建て直して新しくなっていますが、1階にはホテルオークラのおしゃれなガーデンテラスがあり、食事やお茶が楽しめます。そのほかに、洋画家黒田清輝の記念館もあり、有名な「湖畔」などが展示されています。(木曜日・土曜日の午後のみ公開)。正面右の奥に広がる庭園の中に、明治時代の実業家茶人の松永安左エ門が寄贈した江戸時代の名主の住宅とお茶室の「黄林閣」があります。(重要文化財・木曜のみ公開)庭を散策しながらこれらを見学するのも一興かと思えます。(記 佐藤)

◆今月の制作風景

◆つめた〜い!



対尾景子さん

「冬の釉薬は冷たいのよね」
朝一番は特に冷たいですが
がんばりましょう!

◆色に悩みます…



中下友紀子さん

家族十人分のマグカップ
を製作中です。ご本人はど
んな色にするか悩んでいます。

◆削りに集中…



小林悦子さん

四角い花入れの削り中
です。一か所だけ薄くならない
ように平均に削ってください
ね。

◆声掛けないで…



宮崎誠仁さん

今年最初の作品作りです。
慎重に大きさを決め、カップ
&ソーサーにチャレンジ。

◆大きいでしよ…



中河政子さん

赤ちゃんくらい大きなふ
くろうの置物です。白萩とル
リイラボを掛け終わり、ちょ
っと一休みです。

◆固いし冷たい…



木谷光伸さん

紅志野は特に沈澱が早く固
まりやすいので、混ぜたら素
早く掛けるのがコツです。

◆プレゼントなの…



山本美津子さん

「夏に使う蚊取り線香台を
二つ作り、一つはお友達に
プレゼントします」

◆大変だわ…



中山弘子さん

初めて型を使って長四方
鉢を作っていますが、てびね
りとは工程がちがうので、ち
よっと大変でしたね

◆鉢カバーです…



奥村千恵子さん

前回作った鉢カバーをも
うひとつ作っています。
今回はハートの抜き型を使
って表面に穴を開けます。

◆グラタン皿…



酒井圭子さん

「グラタンが大好きなの
で、少し大き目に作ってい
ます。がんばります」

◆めざせ!ロクロ名人…



上原由美子さん

てびねり風にふちを内側
にゆがめた小鉢を作ってい
ますが、中心を決める(出す)
のが大変です。両手をあわせ
て慎重に!

◆初級コースご紹介



佐々由佳さん

「新人です。よろしくお願
い致します」

◆私が勧める美味しい店
推薦者 小林和彦さん

フレンチ・レストラン 「洋食屋」



フレンチ・レストラン
「洋食屋」入口

洋食屋とはシンプル過ぎる店名です
が、オーナーシェフの河野さん夫妻が1
989年に白山と本郷にオープンした店
に続き、2年ほど前から「後楽園ラ・ク
リア」前に開店した12席だけのアット
ホームな小さなフレンチ・レストランです。
当日私は軽めの昼食と思い「ワンプレ
トランチ」ホウボウとアン肝・野菜のゆ
ずコンソメ風味焼きを選びましたが、サ
ラダ&パン(ご飯もあり)コーヒーが付い
て1,000円でした。「千円札ってこん
なに価値があったの」と思わずなる内
容は、オーナーシェフの心意気とこだわ
りを感じます。
いつ伺ってもオーナー夫妻のサービスも
味も変わらず、今回も美味しく頂きました。
夜は、予約をして伺うのが良いと思
います。(小林和彦)
文、写真とも小林さんにお願ひしました。



野菜サラダ(上)と
メインデッシュ



「洋食屋」 03-5684-1440
文京区本郷 1-34-4 休み 火曜・水曜
ランチ 11:50~14:00 夜 18:00~20:30

今月の作品

写真は実物と大きさが違う場合があります。作品の撮影とコメントは講師のみなさんにお願ひしています。

□中村雅志さん 中鉢



赤土の鉢に刷毛で化粧を塗り、透明釉をうすく吹き付けて酸化で焼きました。淡い仕上がりがとても良いですね。

□菅原淑子さん 蟹絵皿



北大路魯山人の蟹絵平鉢を模写した素敵な作品です。弁柄で下絵をして透明釉を掛け酸化焼成しました。

□澤三紀さん 練込み小鉢



ご自分で練込みを研究してオリジナルの練込みを作りました。花柄の型鉢にトルコ青を掛けた取鉢です。

□柿沼ひろみさん 酒器2点



白マットにトルコ青を流し、柄にした徳利とぐい呑です。大きさも重さも良く計算されていて使いやすそうです。

□井口誠子さん 鉢カバー



とても大きな鉢カバーです。削った後が柄になり白萩釉に濃淡が出て面白いですね。上部は飴釉が自然に流れ、豪快な作品になりました。

□小林和彦さん 花入れ



今月号でフレンチレストラン「洋食屋」をご紹介いただいた小林さんの完成度の高い作品です。六角面取りの花入れです。1月号に載った花入れは、お知り合いのヨガ教室の玄関を飾っているそうです。この花入れはどちらに飾られるのでしょうか。

□上原由美子さん 足付鉢



素焼きした器に化粧をし線彫りをしました。透明釉を掛け還元焼成した力作です。

□吉田利子さん 染付皿



プロ並みの絵付けです。写真より実物の方が数段すばらしい秀作です。恐れ入りました。

□小窪猛さん 菊花皿



花びらを1枚ずつ削り、凹凸を付け、白萩で焼いた力作です。苦勞した甲斐がありました。

□平井久和さん 楕円鉢



本物の「もみじの葉」を型に吹き墨をして黄瀬戸と織部を掛けた楕円の平鉢です。

□木村紀子さん 八角皿



タタラで作った八角の皿に弁柄の鉄絵を上手に入れました。全体に白マットを掛け、淡く出た茶色が渋くてとてもいいです。

□近藤律子さん シーサー



沖縄の唐獅子。可愛いですね。赤土で作り目と歯は化粧を塗り呉須で下絵を書き、全体にゴールドを吹き付けました。表情もいい。

□馬上信一さん 抹茶碗



練込みで作った抹茶碗です。縦に混じりあった柄に黄瀬戸を掛け酸化焼成しました。

□近藤真弓さん マグカップ



少し薄目の白萩を掛け、高台の回りに飴釉をワンポイントに還元焼成しました。渋い焼き上がりです。

□渋谷洋子さん 片口鉢



外側を線彫り、うつわ全体に飴釉を掛け、透明釉を吹き付けアクセントにしました。たっぷりした片口鉢が出来上がりました。

□遠山つる子さん ランプシェード



水滴型に作ったランプシェードです。上から下へ流れるように穴を開け全体に黒マットを掛け、還元で仕上げました。

□奥村千恵子さん 長皿



ちょっと変わった長皿ですが、色が面白く出ました。全体に鉄赤を掛けましたが、還元焼成の際、炎の当たり方で濃淡がきれいにできました。

「てびねり」について

メールアドレスを登録の方に「てびねり」を毎月送信しています。「ご希望の方は登録ください。また、検索で「湯島陶芸」と入力すれば、いつでも「てびねり」を遡って見る事ができます。

見た事・聞いた事・読んだ事

「もろいから」への入

今の日本は不景気、不満が充満している。国家から、会社から、親からもらってばかり当てにしている、と作家の首野綾子が新聞のコラム欄で嘆いていて、12月26日産経) 次のような話を書いていました。
 □妻をがんで亡くした男が幼い娘と暮らして、食事の用意をして仕事に出かける毎日だったが、幼い娘がいつの間にか食べた後の茶碗を見よう見まねで洗い、片づけるようになった。

□もうひとつ、両親とも重度の身障者の間に生まれた幼い赤ちゃん、両親の面倒を見ていた話。ようやく歩けるようになったがまだおむつを付けている赤ちゃんが、手洗いにいけないお父さんにシピンを持っていき、又それをお手洗いに捨てに行く。そして自分のおむつが汚れると、きれいなおむつを持って歩けない母親のところに行き、「ころんところんがっておむつを替えてもらい、そして汚れたおむつを自分で捨てに行くのだそうです。

□作家は続けて、日本は不満が充満しているが、国家や社会や親が無能なのではない。誰も自分を助けてくれる人は本質的にはいないのだ。「すべて自分で何とかしなければならぬ」と思うと、「幼子」や「赤ちゃん」までが親のために働ける。日本人の精神の方向性を、もう期待から与える姿勢に百八十度転換すれば、この閉塞的な空気の重苦しさを解決できるのではないか。しかし、この食うや食わずの状況で人を助けられませんか、と言つてもいるだろうが、それは間違いだ。いささかでも与える生活はどんな貧しい境遇でもできる。そこから新しい道が開ける。と…。

□オバマ大統領が就任演説でアメリカ国民に向かって、「一人ひとりが責任を持つ」と、そしてこの迎えている難関に立ち向かうというふうな意味のことを訴えていたが、この話にも一脈通ずるものがあるような気がします。人様のお役に立つことは言つのは簡単ですが、なかなか出来ないことです。せめて幼子や赤ちゃんに負けないようになりたいと思つたのですが…。